

一、次の文章は、メディアとスポーツの関係を考察した文章のうち、「ジェンダー」の章の初めの部分である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【問題】次のエピソードを読んで、外科医と男の子の関係を答えなさい。

父親と男の子が横断歩道を渡っているところへ、大型トラックが突っ込んできました。

父は即死しました。

男の子は大けがを負い、救急車で病院に運ばれました。

病院に着いた男の子を、外科医が確認しました。

外科医は叫びました。

「息子！ これは私の息子！」

いくつかの答えが可能だろうが、おそらく最も妥当なものは「母親と息子」だ。答えられた方はどのくらいいただろう。もしかすると、「ジェンダー」という章の初めであることがヒントになったかもしれない。この問題をなんの前置きもせず口でいうと、外科医は男の子の母親だと答えられる人はあまりいない。

【A】という先入観があるためだ。

ジェンダーとは、ひとことで言えば「社会的・文化的につくられた男女の差異」のことだ。「男はこうするもの、女はこうするもの」という性による役割のおしつけ、その性役割を暗黙の前提とした*ステレオタイプやルール、そしてさまざまなことばが、社会にはあふれかえっている。

ジェンダーによるステレオタイプを社会に広めているもののひとつが*メディアである。斎藤美奈子はその*ポップなジェンダー論『B 論』のなかで、①子ども向けの特撮・アニメ番組を分析している。斎藤によれば、②子ども向けの「アニメの国」には、「男の子の国」と「女の子の国」というふたつの文化圏が存在する。

男の子の国の物語の(a)最右翼は、テレビができる前から*英雄譚だった。「ヒーローが怪物を退治したり、憎っくき(b)デキを討伐する物語」であり、昔話の桃太郎が典型的だ。「(c)ブユウと祖国の救済がセットになったいさましさ」を売りにする伝統は、現代の男の子の物語にも引き継がれている。たとえばウルトラマンのようなヒーロードラマだという。

これに対して女の子の国の物語は、伝統的に「お姫様もの」が中心だった。シンデレラや白雪姫、眠り姫の③ように、お姫様が王子様に巡り会い、(d)シレンを超えて結婚にこぎつけるラブロマンスである。さすがに現代のアニメ文化では、王子様をじっと待ちつづけるヒロインは少なくなり、『美少女戦士セーラームーン』(e)イコウは、みずから戦うヒロインも増えてきた。【C】魔法によって変身できる点をはじめとして、④シンデレラ文化の伝統は確実に受け継がれているという。

男の子の国は「軍事大国」であり、女の子の国は「恋愛立国」であると、斎藤は明快に(f)テイギする。両者の関係は(g)拮抗しているわけではない。男の子の国のほうがはるかにメジャーで、番組数も多い。【D】男の子の国の住人は、戦とうが毎週あるから忙しく、私生活はほとんどない。一方、女の子の国は私生活だけである。学校生活や家庭生活がたつぷり描かれ、ヒロインの恋愛ドラマも重要な(h)ヨウソとなる。これらの特徴は、⑤アニメの国が「大人の縮図」であることを示しているという。

斎藤の分析はアニメだけでなく、子ども向け偉人伝の*イデオロギー性にまで及んでいる。子どもなら誰もが触れるメディアのなかに、ジェンダーを刷り込む周到な装置があることがよくわかる。

(森田浩之「メディアスポーツ解体」による)

注 *ステレオタイプ型にはまった考え方や表現。

*ポップな一般(いっぱん)向きで、しゃれていること。

*メディア―新聞・雑誌・テレビなど、情報を伝える仲立ちとなるもの。

*イデオロギー―政治的・社会的なものの考え方。

問1 ― (b) (c) (d) (e) (f) (h)のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 ― (a) (g)の本文中の意味として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

(a) 最右翼

ア、最も感動的なもの

イ、最も初期のもの

ウ、最も有力なもの

エ、最も興味深いもの

オ、最もゆかいなもの

(g) 拮抗

ア、勢力がほぼ等しいこと

イ、内容が似ていること

ウ、どちらも力強いこと

エ、ひたすら競い合うこと

オ、たがいに補い合っていること

問3 ― 【A】にあてはまる考えを五字前後で答えなさい。

問4 ― 【B】にあてはまる「たくさんの男性の中に女性が一人いること」を意味する漢字三字の熟語を答えなさい。

問5 ― 【C】と【D】に入る語の組み合わせを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、すなわち ― しかも

イ、すなわち ―

ウ、しかも ― すなわち

エ、しかも ― しかし

オ、しかし ―

カ、しかし ― しかも

問6 ― ①「子ども向けの特撮・アニメ番組を分析している」とあるが、これらの番組にはどのような仕かけがあるといっているのか。本文中より十五字以内でぬき出して答えなさい。

問7 ― ②「子ども向けの『アニメの国』には、『男の子の国』と『女の子の国』というふたつの文化圏が存在する」とあるが、それぞれの文化圏では主人公が何をするのが中心となっていてえがかれているか。本文中より三字以内でそれぞれぬき出して答えなさい。

問8 ― ③「ように」と同じ意味で使われているものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア、世間には氷のように冷たい人がある。

イ、彼とはもう会わないようにした。

ウ、僕も田中君のように活躍してみたい。

エ、これは、自分ように買ったパソコンだ。

オ、橋は、完成したように思われる。

問9 ― ④「シンデレラ文化」とあるが、ここではどのようなものといっているのか。最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、女の子が想像上の世界の魔法による変身や男性との結婚をたのしむことで、現実を生きる力を得ようとするもの。

イ、女の子が不思議な力で姿を変えるなどして、理想の男性と出会い、愛情で結ばれる結末をむかえようとするもの。

ウ、女の子が魔法によって自分自身の姿だけでなく相手の心までも変えてしまい、恋愛を成就させようとするもの。

エ、女の子が不思議な力で変身することで理想の男性を待たずにすんで戦い、自力で勝利をつかみ取ろうとするもの。

オ、女の子が私生活において魔法で変身するかのよう化粧をして、すてきな男性とめぐり合い、結婚しようとするもの。

問10 ――⑤「アニメの国が『大人の縮図Ⅱ模型』であること」とあるが、どのようなことか。最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、アニメの国の男の子や女の子は、そこに登場する大人たちとほぼ同じ日常を過ごしているということ。

イ、アニメの国は、大人をとりまいている現実の社会問題をありのままにえがいたものであるということ。

ウ、アニメの国の大人たちの生活は、現実の男の子や女の子の日常と基本的に同じ内容であるということ。

エ、アニメの国でえがかれる男の子や女の子の日常は、現実の大人のそれと本質的には違いがないということ。

オ、アニメの国にえがかれた私生活の世界は、現実の大人社会全体を簡潔に表現したものであるということ。

問11 ――とあるが、本文中にあるもの以外にあなたが思いつく具体的な例を一つ挙げ、「本来くはずなのに、く」という形式で五十文字以内で書きなさい。なお、かつてはそうであったという過去の例でもかまわない。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私（琴乃・小学五年生）、周斗（小学二年生）、おねえちゃん（志乃・中学一年生）はごくふつうの姉弟であった。ある日、サッカーボールを追いかけて道路に飛び出した周斗をかばったおねえちゃんは、車にひかれ亡くなってしまった。その後、口をきかなくなった周斗や、精神的に不安定になった両親の様子にたえられなくなった私はおばあちゃんに助けを求める。家族を支えるおばあちゃんだったが、疲労がたたり倒れてしまう。それを境に周斗は再び口をきくようになったが、私はなにかにつけて考えこむようになった。

以下はおばあちゃんの退院の日の様子である。

うちへむかって走るタクシーの窓から、白黒のんだらもようの幕をはった、お葬式をしている家が見えました。私は、またなにか、考えはじめそうになりましたが、それをふりきるようにして、

「とうさんもかあさんも、まつてるよ。うれしいな、うれしいな！」

といって、おばあちゃんの手をにぎりました。おばあちゃんの手は、しわだらけの、がんばりような手です。そのとき、サイレンを鳴らした救急車とすれちがって、私はまた、なにかを考えはじめそうになりました。でも私は、それもふりすてます。すると周斗が、

「おばあちゃん、おばあちゃんはぼくの年に、なにしてた？」

ときいて、①私をたすけてくれました。

「小学二年生のときかい？ さあて、なにをしてただろうね。……むかし、むかしのことで、もうなーんにもおぼえていないよ。むかしむかしといえ、おばあさんは川へ洗たくにいくんだけど、まだ、おばあさんでなかったことだけは、たしかだね。……夢のような気がするよ」

「ぼく、わすれないんだ」

「なにをさ」

「おばあちゃんのこと」

「ありがとうよ」

タクシーは、まぶしい秋の光のなかを、うちにむかって走りつづけます。

うちに着くととうさんが、ポロシャツに短パンすがたで、おばあちゃんの車をあらっていました。そんなかつこうをしていると、とうさんがやせてしまったのが、はっきりと目に見えました。あれ以来、いつもよくわらうとうさんが、すっかりわらわなくなっていました。おもしろいじょうだんをいって、いつもみんなをわらわせるとうさんがだまりこんでいるのを見ると、私は私のほうからじょうだんをいってみようかと思

います。私もやつぱり、②そんな気もちにはなれないのです。

お休みの日には、いつだってヒゲをそらないとうさんが、きちんとヒゲをそっているのは、きょうがとくべつな日だからです。小さいころ、志乃おねえちゃんときょうそうするようにしてさわりっこした、とうさんのアゴのヒゲでした。

私たちが家のまえて話しているのを聞いて、台所からとびだしてきたかあさんが、うれしそうに、

「おかえりなさい、かあさん！」

といました。

③かあさんがおばあちゃんのことを、かあさんとよぶのを私が聞いたのは、それがはじめてのことでした。

テーブルの上にはもう、すっかりごちそうがならんでいます。どちらかといえ、和食のきれいな周斗でさえ、お刺身の盛合せやちらしずし、そしてぎんなんの実や青ゆずをそえた秋野菜の煮ものの大きい鉢を見

て、

「おう！」

といったほどのごちそうでした。

「かあさんにしかられると思ったけど、私、すっかりお料理をならべて、お帰りなさいをいいたかったの」

とかあさんがいったのは、こんなぐあいに料理をならべておくと、あたたかい料理が、さめてしまうからです。でもおばあちゃんは、

「まあまあ、ありがとう。たいへんだっだろう」

といました。

それからおばあちゃんは、かあさんだけに聞こえるような小さな声で、「あの子の四十九日（死後四十九日目の法事）もすんでいないのに、こんなことをして……」

といました。するとかあさんは、

「それとこれとは、べつです。④私たちみんなの気もちなんです」

といました。私は耳のあなが大きくなるほど注意して、耳をすましていました。ふたりが話したのは、たったそれだけでした。それからかあさんは、わざと大きくしたような声で、

「これだけはあたたかくなっちゃね」

といって、「A」と、茶わんむしのしたくをしました。

お祝いのごちそうは、ビールのかんぱいからはじまりました。とうさんは、私と周斗のグラスにも、ほんのすこしだけビールをついでくれました。

「クーツ、うまい！」

そのビールを飲みほして、周斗がいうとみんながわらいました。おばあちゃんが、そんな周斗をめずらしそうに見ているのは、周斗があんなぐあいになつてしまつてから、おばあちゃんがテーブルについている周斗を見るのは、これがはじめてだったからです。

それからとうさんが、えへん！ とせきばらいをして、退院のお祝いの言葉と、お世話になったお礼をいいました。

「こちらこそ、ほんとうにお世話になりました。周斗にも琴乃にも、いろいろお世話になりました」

おばあちゃんは、きつちりと頭をさげて、そういました。

⑤私はなんだか、ひさしぶりに、ばかなじょうだんか、ダジャレかなにかを、いつてみたいような気がしました。こうしてみんなでテーブルについているのが、へんにはれがましいような、てれくさいような気がするのです。私はそんな気もちを飲みこんで、ひたすら、食べることに集中しました。それで自然に、うつむいていることができたのです。鯛の塩焼きにしるお刺身にしろ、よそ見をしながらでは食べにくいものです。

おばあちゃんの退院は、ほんとうにうれしいことでした。周斗がもと

の周斗にもどったことだって、信じられないほど、うれしいことです。

⑥でも、なにかへんなのです。ここから楽しくはなれないし、みんなの話もはずまないので。あかるく話しかあさんの言葉も、それにこたえる、おばあちゃんの言葉も、たまらなくうそっぽく聞こえるのです。

（ひとり、たりないんだよっ！）

私はこころのなかで、はげしくそう思います。だれもかれもが、そのことをしっていました。だからこそ、みんな無口になるのです。⑦いつものとうさんならきつと、

「おい、どうした？ みんな、いやにしずかじゃないか」

というはずなのですが、そのとうさんでさえ、だまってハシをうごか

しているばかりです。

〈ひとり、たりないんだよっ！〉

私が見みだぐんだ気もちで、おねえちゃんのことを思っていると、かあさんが、

「おばあちゃん、おかげさまで私たち、なんとか、たちなおることができました。もう、だいじょうぶです。あしたからは、のんびりやすんで、ゆっくりしててくださいね」

といいました。

⑧私はなきながら、おばあちゃんにS・O・Sを発信した日のことを思い出しました。あのときはほんとうに、くるしくて、つらくて、家族がいまにも、こわれてしまいそうだったのです。

「……わかった。これから、おばあちゃんがそちらに、いきますよ」といって、おばあちゃんはその日のうちに、ここにきてくれたのです。

そして、いまにもこわれそうだった家族を、もとにもどしてくれたのです。でもそのおばあちゃんにも、たりなくなったひとりを、おぎなうことはできないのです。

私たちのクラスではいま、

「キワドーン！」

という言葉がはやっていきます。もちろん「きわどい」という言葉からきたもので、なにかがぎりぎりだというときに、

問1 ―― ①「私をたすけてくれました」とあるが、このように「私」がいうのはなぜか。最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、おばあちゃんが退院する喜びをすなおに出せない「私」の気持ちを代わりに表現してくれたように感じたから。

イ、周斗のむじやきな明るさが、なやみ続けている「私」に自分のおろかさを気づかせてくれたように感じたから。

ウ、重苦しい状況^{じじょうきょう}を考えない周斗の幼さが、おねえちゃんのことを忘れる必要性を教えてくれたように感じたから。

エ、おばあちゃんが倒れた時の衝撃^{しやうげき}を早く忘れたいとあせている「私」をなぐさめてくれたように感じたから。

オ、人が死ぬことについて考え、思いつめてしまう「私」に対して別の話題を提供してくれたように感じたから。

問2 ―― ②「そんな気もちにはなれない」とあるが、それはなぜか説明しなさい。

問3 ―― ③「かあさんがおばあちゃんのことを、かあさんとよぶのを私が聞いたのは、それがはじめてのことでした」とあるが、かあさんはなぜおばあちゃんに「かあさん」とよびかけたのか。その理由として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、おばあちゃんが退院するという特別な日であるので、普段使わない呼び方をしてみたかったから。

イ、退院を待ちかまえている気もちが高ぶって、むすめとしての喜びが自然にあらわれてしまったから。

ウ、うれしさのあまり、大人は子供の前では理性的にふるまうべきだという信念を忘れてしまったから。

エ、こわれそうな家族を心配する「私」に、本当は仲が良いということを教える良い機会だと思ったから。

オ、自分の母親が無事であったことにほっとして、子供時代のようにもう一度あまえたくなったから。

問4 ―― ④「私たちみんなの気もち」とあるが、どのような気もちのことか説明しなさい。

問5 ―― 【A】にあてはまる言葉として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、こそこそ イ、こっこつ ウ、さばさば エ、いそいそ オ、おろおろ

問6 ―― ⑤「私はなんだか、ひさしぶりに、ばかなじようだんか、ダジャレかなにかを、いつてみたいような気がしました」とあるが、このような気もちに「私」がなるのはなぜか。二十五字以内で説明しなさい。

問7 ―― ⑥「でも、なにかく聞こえるのです」とあるが、「私」がそのように感じているのはなぜか。解答らんに合うように答えなさい。

問8 ―― ⑦「いつものとうさんならきつと、くというはず」とあるが、いつもはどのようなとうさんであるのか。「くとうさん」につながるように本文中より三十字以内でぬき出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

問9 ―― ⑧「私はなきながら、おばあちゃんにS・O・Sを発信した日のことを思い出しました。く家族がいまにも、こわれてしまいそうだったのです」とあるが、おねえちゃんの死やおばあちゃんの入院などを経験したことによって「私」は、家族というものはどのようなものであると思うようになったか。解答らんに合うように答えなさい。

問10 ―― 【B】にあてはまる言葉として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア、ガラス イ、まぼろし ウ、ロウソク エ、あらし オ、めいろ

問11 ―― ⑨「私は自分でもくたいした言葉なのです」とあるが、「私」が「たいした言葉」だと感じるのはなぜか。解答らんに合うように答えなさい。

問12 (A) 家族が明るく暮らすためにはどのようなことが大事だと思いますか。具体的に書きなさい。また、(B) それが大事だと思う理由を八十字以内で書きなさい。

「キワドーン！」
とさけぶのです。

家族というものは、ほんとうにきわどいものだど、いま私は、つくづくそう思います。

「キワドーン！」

とさけんで、みんなで手をたたいてわらう、そんなこわれやすいものが、家族ではないでしょうか。だからこそ、こんなにだいで、こんなにびみょうなのです。だれかが欠けてしまったときになってはじめて、欠けたものの大きさを思いしるのです。

家というものは、どの家もどの家も、こわれやすい【B】の家だと思います。私は夜、どこかにいつて電車にのつてるときなどに、遠い家々の窓のあかりを見ると、なつかしいような、かなしいような、ふしぎな気もちになることがあります。そのわけもまた、

「キワドーン！」

というひとことで、いいつくされるのではないでしょうか。⑨私は自分でもその言葉をつかいながら、こころのどこかでケイベツしてきたのですが、きわどい橋をわたつてきたいまにして思うと、これはなかなか、たいした言葉なのです。

(今村 葦子「ひとりたりない」による)

解答らん

(字数制限のある問題は、特に指示がない限り、文字以外の記号もすべて字数に入れること。)

一

問1	(b)		(c)		(d)	(e)	(f)	(h)	
問2	(a)		(g)		問3		5		
問4			問5						15
問6									
問7	(男の子の国)				(女の子の国)				
問8		問9		問10					
問11									40

50

二

問1		問2							
問3		問4							
問5									
問6					25				20
問7	この家族が							から。	
問8			ゝ			とうさん			
問9	家族というものは								である。
問10									
問11	「キワドイ」という言葉が、								から。
問12	(A)	(B)							

80